



鹿児島県知事
伊藤 祐一郎

地理的優位性を生かした アジア地域との更なる交流拡大

鹿児島県は、アジアに開かれた地理的特性から、歴史的に外国との交流の門戸として、重要な役割を果たしてきました。

幕末期の薩摩藩では、人々が豊かに暮らせる日本とするため、諸藩に先駆けて近代的な工業団地を造成したほか、青年を海外へ留学させ、法律や技術を学ばせるといった、人材育成にも取り組み、多くの有能な人材を輩出するなど、日本の近代化に大きく貢献しました。

そして、当県に現存する旧集成館機械工場（現在の尚古集成館）などは、「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」として、世界文化遺産政府推薦案件となっており、2015年度の世界文化遺産登録を目指しています。

また、2018年には明治維新150周年の節目の年を迎えることから、様々なプロジェクトを予定しています。

当県では、こうした地理的、歴史的特性を背景に、アジア地域を中心に様々な国際交流施策を展開しています。

特に、香港、シンガポール、韓国・全羅北道^{チョルラプ道}、中国・江蘇省については、定期的な交流会議等を開催し、経済、観光、青少年等様々な分野で交流を積み重ねてきているほか、各々の地にある「アジアかごしまクラブ」で、人的ネットワークの形成を図っています。

また、アジアを代表する国際音楽祭として高い評価を受けている「霧島国際音楽祭」は、毎年アジア各国から受講生を受け入れるとともに、2014年度には初めての海外公演を台湾で予定するなど、芸術・文化の交流も活発に行っています。

現在、世界はグローバル化の急速な展開や本格的な人口減少、少子高齢化の進行など、大きな変革期の中にあります。その中で、地方自治体もあらゆる分野での国際競争力を高める必要があります。

とりわけアジアは、世界の経済成長のエンジンであり、大きな発展可能性を秘めています。本年3月からは、これまでのソウル、上海、台北への航空路線に加え、香港線が再開されたところであり、当県の地理的優位性を最大限に生かしたアジアとの経済交流の強化が期待されます。

また、農業を基幹産業とする当県は、我が国有数の食料供給基地として高いポテンシャルを持ち、世界に誇れる安心・安全な農産物を生産しています。昨年末には、「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されたこともあり、今後「和食」の素材として、海外においても高品質な農畜水産物の需要は一層高まることが期待され、当県にとっても世界に向けた販路拡大の大きなチャンスとなります。

当県のこれからの国際交流は、人・物・情報の交流を拡大することで、環黄海経済圏をはじめとするアジア地域の活力を取り込み、地域経済の活性化に繋げていくことが重要であると考えています。当県がこれまで培ってきた長年にわたる交流の実績を基盤に、今後もアジア地域との戦略的な連携・協力関係を構築してまいります。